

一般調査報告書
中国ヒューマノイドロボット産業の最新動向

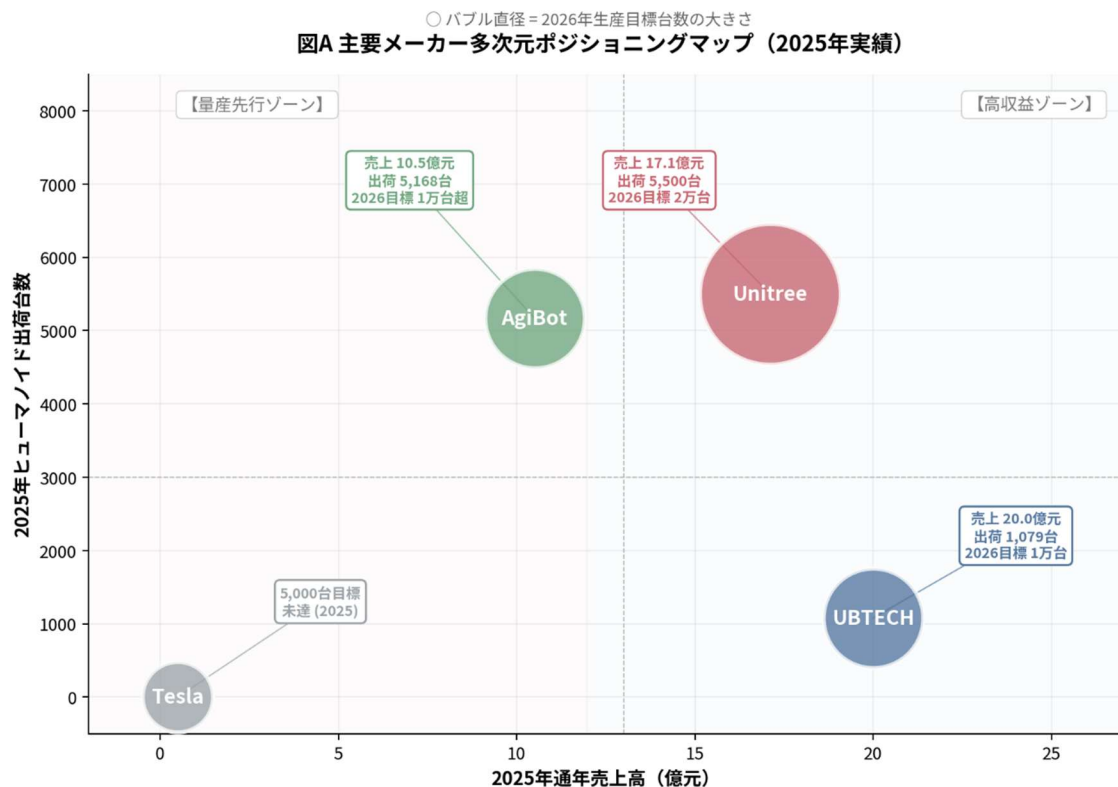
1 はじめに

近年、中国ではヒューマノイドロボット（人型ロボット）の開発・量産が急速に進んでおり、2025年は「量産元年」と位置付けられた節目の年となりました。2026年に入ると年産1万台規模の専用工場稼働や大手メーカーのIPO申請が相次ぎ、業界の重心は「実証・展示」から「現場での実利用」へと移行しつつあります。

中国国内の自動車製造業においても、中国製ヒューマノイドが完成車メーカーの組立ラインで実証稼働する事例が増えており、本県企業にとっても無視できない動向となっています。本レポートでは、2026年初頭時点の最新状況を、業界トップ企業の動向、産業政策、課題の三つの観点から整理します。

2 中国メーカーが世界出荷量で先行

2025年における世界全体のヒューマノイドロボット出荷台数は約1.3万台と推計されますが、その大半を中国メーカーが占めました。英調査会社オムディア（Omdia）の集計によれば、世界の年間出荷台数で1,000台超を達成し「第一階層（first tier）」に位置付けられたのは、いずれも中国企業である①AgiBot（智元機器人）、②Unitree（宇樹科技）、③UBTECH（優必選）の3社のみとされています。図Aは、これら3社およびTesla（米）の戦略ポジションを「2025年売上高×出荷台数×2026年生産目標」の3次元で可視化したものです。



出典：UBTECH 2025年通期決算、Unitree IPO目論見書（2026.3.20）、AgiBot公表値、Humanoid APAC Q1 2026 報告

3社の戦略には明確な違いがあります。

Unitreeは四足歩行ロボットで世界的に知られていましたが、2025年にはヒューマノイドが売上の過半を占めるに至り、出荷5,500台・売上17.1億元（前年比約4倍）・調整後純利益6億元と初の通期黒字を計上、2026年3月20日には上海証券取引所「科创板（STAR Market）」へのIPOを申請しました（調達予定額約42億元、約880～915億円相当）。同社のヒューマノイド平均販売単価は2023年の約1,341万円相当から2025年には約379万円相当へと、わずか2年で約7割下落しました。

AgiBotは2023年に元華為（Huawei）出身者らが設立した新興企業ですが、2025年12月に量産第5,000号機、その約3.7か月後の2026年3月30日には累計1万台を突破、通年売上は10.5億元（前年比約17倍）に達したと報じられています。

UBTECHは中国ヒューマノイド企業として最初の株式公開（2023年12月、香港）を果たした老舗で、産業用途に特化した「Walker S2」（身長1.76m、自律バッテリー交換機能）を量産モデルとして展開、2025年通年売上は20.01億元（前年比+53.3%）、フルサイズ産業用ヒューマノイドの累計販売台数は1,079台に達しました。

3社の主要指標を表1に示します。各社の2026年生産目標は2025年実績を大きく上回る規模であり、中国主要3社の合計で3～4.5万台規模の生産計画となっています。

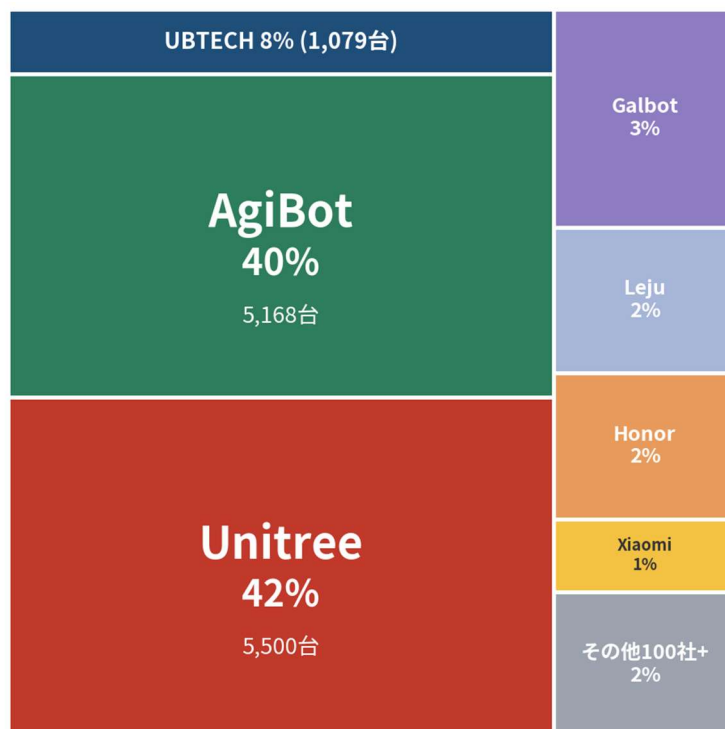
表1 中国主要3社およびTesla（米）の比較

項目	Unitree	AgiBot	UBTECH	(参考) Tesla
本社	浙江省杭州市	上海市	広東省深圳市	米テキサス州
設立	2016年	2023年	2012年	2003年(自動車)
主要モデル	G1, H1, R1	Yuanzheng A2/A3, Lingxi X1/X2	Walker S/S2	Optimus Gen2 (Gen3は2026夏発表予定)
2025年出荷	5,500台	5,168台	1,079台	目標数千台に対し未達
2025年売上	17.1億元 (+335%)	10.5億元 (前年比約17倍)	20.0億元 (+53%)	非開示
2026年目標	10,000～20,000台	10,000台超	10,000台	100,000台(計画)
特徴	低価格・大衆向け、IPO申請中	AI重視、急成長、Huawei出身者主導	産業用、自動車各社実装	自社EV工場で実証中
上場	上海科创板に申請中(2026.3)	バックドア上場準備	香港上場済(2023.12)	NASDAQ上場済

出典：UBTECH 2025年通期決算報告、Unitree IPO目論見書（2026.3）、AgiBot公式発表（PRNewswire 2025.12.8）、Gasgoo（2026.4.17）等を基に筆者作成

中国ヒューマノイド市場全体の構造を見ると、図Bのとおり、上位3社で全体の約90%、Unitree + AgiBotの2社だけで約82%を占める寡占構造となっており、第二集団との差は大きく開いています。

図B 中国ヒューマノイド市場シェア構造（2025年・出荷台数ベース）



※ 上位3社で全体の約90%、Unitree+AgiBotの2社だけで約82%を占める寡占構造

出典：Omdia「General-Purpose Embodied Intelligent Robot 2026」、TrendForce（2026.4.9）、各社公表値

第二集団に位置する主要メーカーを表2に整理します。スマートフォン大手の参入（Honor、Xiaomi）や、完成車メーカー自身による開発（GAC）、CATL等の大手企業との連携など、参入主体の多様化が進んでいることが特徴です。

表2 中国第二集団主要メーカーの比較

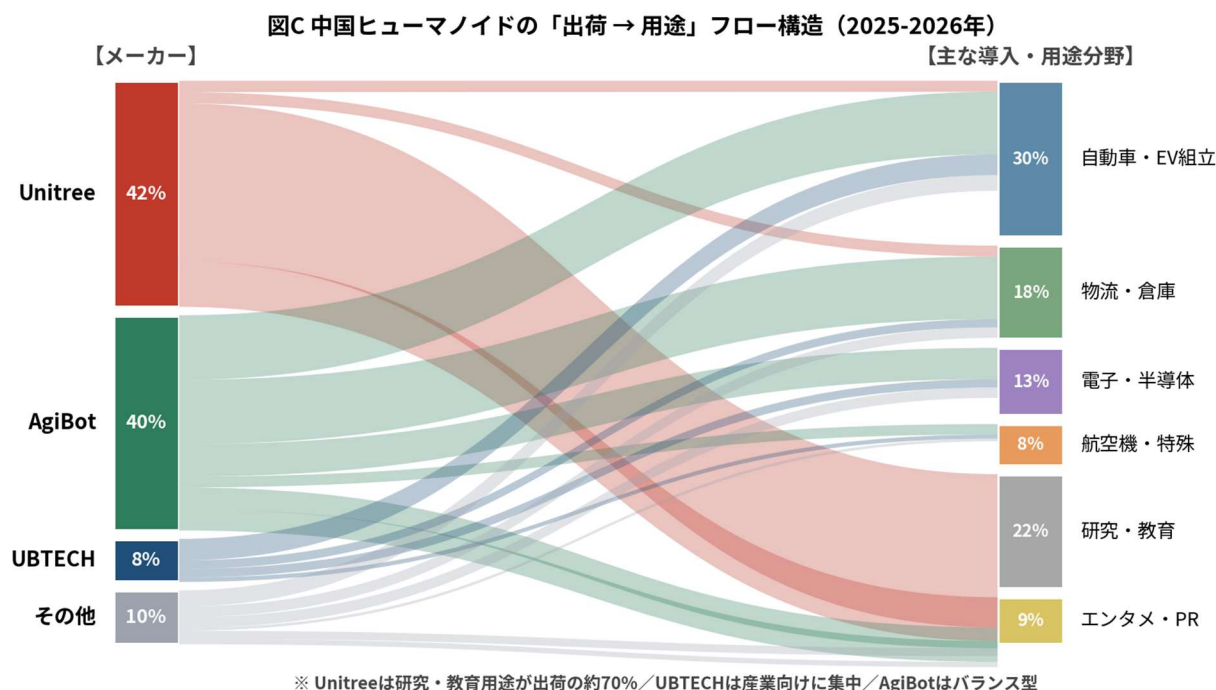
企業名	拠点	特徴・主要モデル	最近の動き
Galbot (銀河通用)	北京市	車輪型・両腕型ヒューマノイド (Galbot S1、最大50kg可搬)	CATL電池工場で実証導入 / 累計約3億ドル調達済
Leju (樂聚機器人)	広東省深圳市	広東省で年産1万台の専用工場稼働 (2026.3)	東方精工科技と合弁、コア 部品共用化
GAC GoMate	広東省広州市	自動車大手による独自開発 (GoMate Mini を2026 Q1発表)	完成車メーカーがロボット 事業へ参入
Honor (栄耀)	広東省深圳市	スマホ大手から参入。Robotics D1 (Lightning)	北京ハーフマラソン2026優 勝 (50分26秒)
Xiaomi (小米)	北京市	CyberOne (2022年発表)、自社EV 工場で運用想定	北京E-Townデータセンタ ーに参画

出典：各社公表値および新華社、36Kr Japan、Reuters、Gasgoo等の報道を基に筆者作成

3 自動車産業との接点

中国ヒューマノイドの実用化が最も先行している分野が、自動車組立工場です。UBTECHの「Walker S」シリーズは、これまでに中国の新興EVメーカーであるNIO（蔚来）やZeekr（極氪）、BYD（比亞迪）の組立ラインに導入され、部品搬送、外観検査、シール塗布などの工程で実証稼働しています。さらに2026年初頭には、欧州エアバス社との協業にも合意し、航空機製造工程への適用も始まっています。同社はFAW-Audi（一汽-アウディ）、富士康（フォックスコン）などとも提携を結んでいます。

各社の出荷台数がどの産業分野に流れているかを定量的に示したものが図Cです。Unitreeは研究・教育用途が出荷の約70%を占めており、UBTECHは産業向けに集中、AgiBotは複数分野にバランスよく展開していることが分かります。



また2026年第1四半期には、中国大手自動車メーカーである広州汽車集団（GAC）が「GoMate Mini」（2024年12月発表のGoMateシリーズ第4世代）を発表しました。完成車メーカー自らがロボット開発に乗り出す動きは、本県企業のサプライチェーン構造にも中長期的に影響を及ぼす可能性があります。

4 政府の後押しと産業エコシステム

中国政府は2021年12月にMIIT（工業情報化部）が策定した『『十四五』 机器人产业发展规划』でロボット産業を重点指定し、2023年11月の「人形机器人创新发展指导意见」でヒューマノイドを名指して重点分野に位置付け、2025年の量産化を目標として明記しました。2026年から始まる「第15次五カ年計画（2026～2030年）」の建議では、「身体化知能（Embodied AI）」を「新たな質の生産力」を担う中核技術として位置付けています。制度面でも、2025年末にMIITが「ヒューマノイドロボット及び身体化知能標準化技術委員会」を設立、2026年初頭には初の包括的な業界標準体系を公表しました。資金面でも、中国の2025年1～9月期のロボティクス関連投資案件は610件・約500億元に達し、前年同期比で大幅に増加しています。

5 残された技術的課題

産業全体として、商用化に向けた課題も少なくありません。

第一に、**稼働時間の短さ**です。AgiBotの王闯（ワン・チュアン）上級副総裁は、現状の多くのヒューマノイドはフル充電で2～3時間しか稼働できないと指摘しており、本格的な工場連続稼働には不十分です。固体電池の量産化（2027年以降と見込まれる）が一つの突破口とされています。

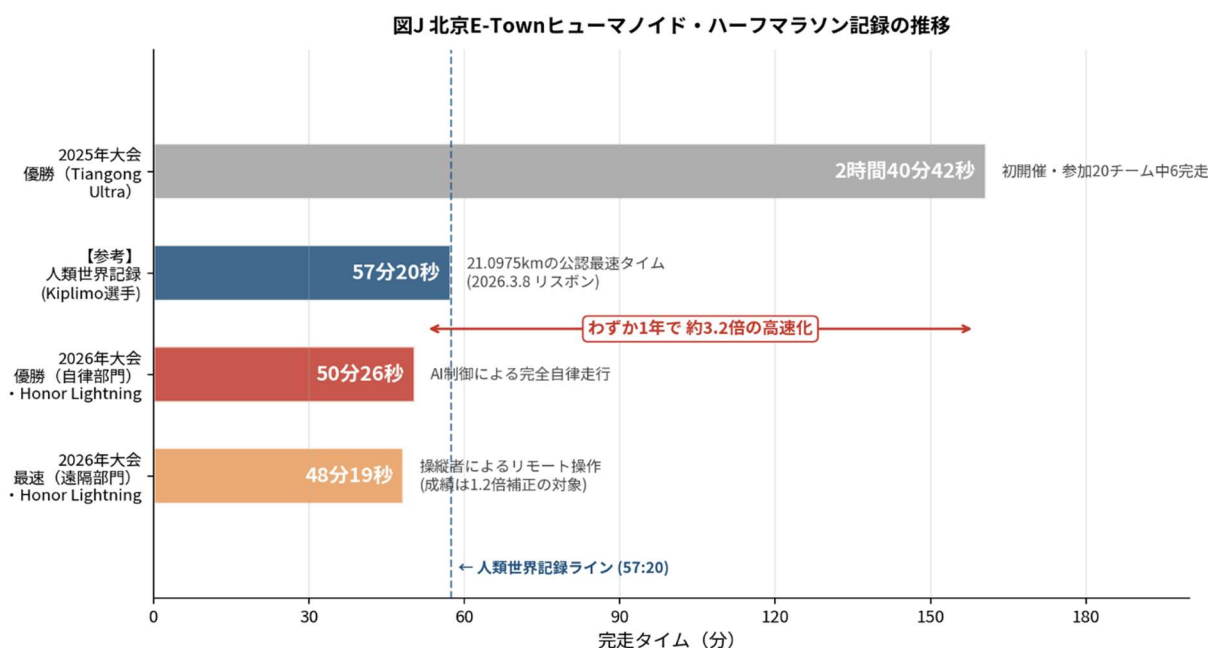
第二に、**ソフトウェアの成熟度**です。ハードウェアの量産能力が先行する一方、現場の不規則な環境で安定して稼働するためのAI（基盤モデル）には、依然として大量の実機稼働データが必要であり、これが業界共通のボトルネックとなっています。

第三に、**業界の過熱感に対する警戒**です。2026年4月に中国証券業協会がUnitreeのIPOに対して抜き打ち現場検査の抽選対象に選定したことに象徴されるように、規制当局も急成長分野への監督を強めています。100社超とされる中国ヒューマノイドメーカーのうち、実際に量産・収益化を達成できる企業は限定的であり、今後数年間で業界再編が進むと多くの専門家が指摘しています。

6 象徴的事例 — 北京E-Townヒューマノイド・ハーフマラソン

業界の進歩を端的に示す出来事として、2026年4月19日に北京経済技術開発区（北京E-Town）で開催された第2回「ヒューマノイドロボット・ハーフマラソン」が挙げられます。中国スマートフォン大手「栄耀（Honor）」のロボット「Robotics D1（愛称：Lightning／閃電）」が、自律走行部門で50分26秒のタイムを記録し、ヒトの男子ハーフマラソン世界記録（57分20秒、Kiplimo選手・2026年3月8日リスボン）を上回りました。前年（2025年）の優勝タイムが2時間40分42秒であったことを考えると、わずか1年で約3.2倍の高速化を達成した計算になります。

この大会には100以上のチーム・約300台のロボットが参加し、約45%が完走しました。なお、コースは事前に走路情報がマッピングされた特殊環境であり、不特定多数の人混みでの自律行動とは性格が異なる点に留意が必要です。



出典：新華社（2026.4.19）、AP通信、PBS NewsHour、Reuters、CGTN、Global Times（2026.4.19）

7 終わりに

中国ヒューマノイド産業は、2025年の「量産元年」を経て、2026年以降は実用展開の真価が問われる段階に入ります。本県の主力産業である自動車製造業との関連でも、中国国内では組立ラインへの導入実例が確実に増加しており、サプライチェーン上の影響を含めて引き続き注視する必要があります。一方で、稼働時間、器用性、AIソフトウェアといった本質的な技術課題が残されているほか、業界の急拡大に伴う再編リスクも顕在化しつつあります。

愛知県上海産業情報センターでは、こうした中国現地の最新動向について、今後も継続的な情報発信に努めてまいります。

【出典・参考文献】

1. 新華社「Yearender: China's humanoid robots step from spectacle toward scalable industrial reality」
2025年12月31日
2. AGIBOT「AGIBOT Announces the Rollout of Its 5,000th Mass-Produced Humanoid Robot」
2025年12月8日（PRNewswire）
3. South China Morning Post「China's Unitree Robotics rides humanoid tide as it targets US\$610m IPO」
2026年3月23日
4. Reuters / AP通信 / 新華社 / PBS NewsHour「Humanoid robot wins Beijing half-marathon」
2026年4月19日報道
5. Omdia「General-Purpose Embodied Intelligent Robot 2026」
6. TrendForce「China's Humanoid Robot Output to Surge 94% in 2026」
2026年4月9日
7. Rest of World「China robot maker Unitree files for \$610 million Shanghai IPO」
2026年3月

本資料は、上海産業情報センターが、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。
上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。
また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。